

# 6歳から 楽しめる絵本



……長いおはなしを聞けるようになったら……  
おすすめの55冊



## あらしのよるに

木村裕一 作  
あべ弘土 絵  
講談社

アヘ

嵐の夜に、白いヤギが壊れかけた小さな小屋にもぐり込みました。小屋の中は、真っ暗で何も見えません。そこへ足をくじいたオオカミが。風邪で鼻もきかず、お互いの姿も見えない中、ヤギは相手をヤギだと、オオカミは相手をオオカミだと思っ込んでいます。



## アンディとらいおん

ジェームズ・ドーハーティ  
ぶん・え  
むらおかはなこ やく  
福音館書店

トハテ

アンディは図書館でライオンの本を借り、その晩夢中で読みました。彼の頭の中はライオンでいっぱい。そして次の日、彼はなんと本物のライオンに出会います。ライオンのとげを抜いてあげたアンディは、サーカスでライオンと再会することになるのですが……。



## アンナの赤いオーバー

ハリエット・ジーフェルト ぶん  
アニタ・ローベル え  
松川真弓 やく 評論社

ロヘル

「戦争がおわったら、新しいオーバーを買ってあげようね」と、お母さんが言いました。でも、戦争がおわっても、お店には品物がないうちにはお金がありません。お母さんはオーバーを作るために、家にある金時計と羊毛を交換することにしました。



## 海へのあさ

マックロスキー 文・絵  
石井桃子 訳  
岩波書店

マツク

サリーが、お父さんとバックス・ハーバーへ行く日の朝。口の中でなにか、いつもと違った妙な感じがしました。サリーの歯が1本抜けそうです。歯が抜けたら、おねがいごとをしよと楽しみでしかたないサリーですが……。



## おおきくなりすぎたくま

リンドワード 文・画  
渡辺茂男 訳  
ほるぷ出版

ワ

家にくまの毛皮がないジョニー君は、自分でくまをしめたいと思っていました。ある日森の奥深くに入っていくと、こぐまに出会い、家につれて帰るのでした。こぐまは家のものをたくさん食べて、たいへん大きくなりました。



## 大雪

ゼリーナ・ヘンツ 文  
アロイス・カリジェ 絵  
生野幸吉 訳  
岩波書店

カリシ

大雪が降り積もった日、ふもとの村におつかいに行ったフルリーナが、なかなか帰ってきませんでした。兄のウイリスは心配して、妹のフルリーナを探しに出かけます。大雪の中でも助かったのは、あらしの木のおかげでした。



## おいしいのぼうけん

ふるたたるひ  
たばたせいいち さく  
童心社

タハタ

さくら保育園には、こわいものがふたつあります。ひとつはおいしい、もうひとつはねずみばあさんです。ある日、ふざけていたあきらとさとしが、みずの先生に怒られ、おいしいに入れられてしまいました。暗闇の中は……。



## おしゃべりなたまごやき

寺村輝夫 作  
長新太 画  
福音館書店

チヨウ

「今日のおかずはたまごやき」のその日、王さまは、お城のわきのにわとり小屋を見つけると、にわとりを助けようと戸を開けてしまいます。にわとりが飛び出して、お城は大騒ぎ！みんなが犯人さがしを始めます。



## おにたのぼうし

あまなきみこ 文  
いわずさちひろ 絵  
ポプラ社

イワサ

おにたは、物置小屋に住んでいる小さいくろおにの子です。節分の夜、おにたは豆まきの音を聞きながら、つのかくしのぼうしをかぶって、物置小屋を出ていきます。豆のにおいもせず、ひいらぎもない家に入りこむと……。



## おひさまパン

エリサ・クレヴェン 作・絵  
江國香織 訳  
金の星社

クレウ

悪い天気が続く長い冬、動物たちは家の中でうんざり。おひさまが恋しいパン屋さんは、おひさま味のパンを焼きます。食べるおひさまが夏になる、すてきなおひさまパンです。裏表紙におひさまパンの作り方も載っています。